

# 寝かせつけ場面を中心とした育児の言語行動

椎名 渉 子

## 1 はじめに

本章は、特定の言語行動場面において用いられる表現を記述するものである。そのなかでも、今回は育児場面における言語行動を取り上げたい。筆者が以前より研究対象としてきた子守歌の詞章に現れる子どもに就寝を促す表現と、育児という実際の言語行動における表現との間には何か地理的関連性があるのかといった疑問を持ち、このような場面を取り上げるに至った。子守歌の詞章に存在し、調査対象である2つの表現の定義は以下の通りである。

- (A) おどし表現 : 「ハヤクネナイト モーコ クツツォ(早く寝ないと化け物が来るぞ)」など  
子守の就寝の要求・命令に従わなかった場合のおどしや罰を示す表現。つまり、寝なかったら悪い結果になることをあらわす。具体的には、子どもの恐れる化物や動物が、子どもに害を及ぼす動作主となる内容が多い。
- (B) 甘やかし表現 : 「オカシアゲルカラ ハヤク ネロ (お菓子あげるから早く寝ろ)」など  
子守の就寝の要求・命令に従った場合の褒美を示す表現。つまり、寝たら良い結果になることをあらわす。具体的には、菓子や玩具など子どもの喜ぶ・身近なものを与えたり、良い場所へ連れて行くという宣言をする内容が多い。

さて、(A)おどし表現と(B)甘やかし表現の出現数や表現内容の地域差については、先に、宮城県・山形県の内陸部を対象にした『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』において、2006年度気仙沼市方言調査・2007年度南三陸方言調査の結果と陸羽東線調査の結果とを比較した。前者を「沿岸」地域として、後者を「内陸」地域としてみると、「表現が固定化してバリエーションの少ない内陸」と、「表現が多様で複雑な構造を持つ沿岸」といった各地域の傾向の違いが認められた。

さて、本章では、この「沿岸」地域を取り上げ詳細に分析する。具体的には、子どもを寝かせつける場面(以下、就寝場面とする)と外出時に子どもが泣いたり騒いだりする行動を統制する場面(以下、外出場面とする)の2つの場面において得られたおどし表現・甘やかし表現を世代別に分類し、場面差と世代差を考慮しながら分析する。つまり、おどし表現・甘やかし表現を対象として、子どもの行動を統制する育児者の言語行動についての考察ということになる。このような、子どもの行動を統制する表現についての研究は、東ほか(1981)が挙げられる。東ほか(1981)では、一定場面における母親の子どもに対する言語行動を、「しつけ方略」としていくつかのパターンに分類している。そのなかでも、本章で取り扱うおどし表現が東(1981)でいうところの「説得・暗示」、甘や

かし表現が「代償」にほぼ相当し、これらを含む「しつけ方略」の日米比較を試みている。このように、おどし表現・甘やかし表現は、発達心理学等の分野においても育児の言語行動の一つとして認知されているといえる。本章では、こうした言語行動の語彙や語法といった表現内容の詳細を、一地域を対象として言語学的視点から取り上げる。

## 2 調査概要

本章では、以下の調査によって得られた結果をもとに、子どもを寝かせる際の言語行動を記述・分析する。各調査の調査概要は以下の通りである。

### ●2006年度気仙沼市方言調査（面接調査）

気仙沼市における多人数面接調査。回答語形

### ●2007年度南三陸地方方言調査（面接調査）

本稿では、調査地域内の地理的分布は特に問題にしない。

両調査をあわせて、調査対象表現数は以下の通りである。

- ・おどし表現：寝かせつけ場面（就寝場面）88，外出の場面（外出場面）149【計 237】
- ・甘やかし表現：就寝場面 52，外出場面 84【計 136】

## 3 調査の質問文

調査における質問文を以下に記載する。話者には、昔の体験を回想しながら回答してもらった。その際、インフォーマントの使用語・理解語の別は4章以降の回答例示の際【リ】印(理解語)と記述するが、本稿では、使用語・理解語の別については深く取り上げず、参考情報に留めることとした。今回は、表現の量的・質的な分析に重きを置き、できるだけ多くのデータを用いて地域的傾向を掴むことが先決だと考えたからである。実際に、両調査において若年層話者の回答の中には、両親や家族から聞いた理解語の回答も少数見られるが、このような場合も、全て当該地域の表現であると捉え、同質のデータとして扱った。調査時の質問文を以下に記す。

### 3.1 場面設定文と質問文について

上の調査文のうち、質問1と質問3の前の枠内の文章は、場面設定を説明する文である。質問を行う前に読み上げ、話者に状況を理解し想定してもらいながら調査を進めた。

質問1・2の場面設定文の読み上げにおいては、具体的な状況説明は加えず、「子どもに言うことを聞かせようとする場面」という表現に留めたいうえで、おどし表現・甘やかし表現について質問をした。場面設定について何か説明を求められた場合、「例えば、バスで移動中の車内を想像してください」や「歩道（公道）を歩いているときを想像してください」といったように公共交通機関や公

道の利用時など、公的場面を想起してもらえるような補足説明を行った。また、質問3・4は寝かせつけ場面であることを明示して質問をした。

### 3. 2 調査時における具体例の取り入れ方

このような調査の質問文は、質問内容の性質上、インフォーマントからすばやく回答を得ることが容易ではない。過去の使用状況も含めた回答を求めるため、インフォーマントの記憶の検索を伴う。よって、適宜、具体例を挙げながら進めていく必要があった。表1の調査文では、各質問のあとに具体例を記載した。これは面接調査時に、これらの具体例をインフォーマントに分かりやすく説明しながら調査を進めるためである。調査時間の関係上、できるだけ速やかに話者に場面設定を理解してもらう意図がある。

※たとえば、だだをこねてなかなか言う事を聞かない4・5歳くらいの子どもに、言う事を聞かせようとする場면을想像してください。

1. 子どもに言う事を聞かせようとするときに、何か子どもを怖がらせておどかすような表現を使ったこと／聞いたことがありますか？

(例:「言う事聞かないと、モー(お化け)来っつお」「静かにしないと人さらいがくるよ」など)

2. 子どもに言う事を聞かせようとするときに、「褒美をやるから言う事を聞いて」というように、子どもにとって良いものを約束するような表現を使ったこと／聞いたことはありますか？

(例:「いい子にしたら、お祭りに連れてくよ」「〇〇あげるから静かにしなさい」など)

※今度はあなたが子どもを寝かせようとしています。なかなか寝ない4・5歳くらいの子どもを寝かせようとする場면을想像してください。

3. 寝ない子どもを寝かせようとするときに、何かおどすような文句を言って子供を怖がらせるような表現を使ったこと／聞いたことはありますか？

(例:「いつまでも寝ねえと、モー(お化け)来っつお」など)

4. では逆に、寝ない子どもを寝かせようとするときに、子どもに「褒美をやるから早く寝ろ」というように、子どもにとって良いものを約束するような表現を使ったこと／聞いたことがありますか？

(例:「〇〇をあげるから早く寝ろ」「寝れば〇〇に連れて行くよ」など)

<表1 2006・2007年度 気仙沼・南三陸調査の調査文>

## 4 おどし表現

### 4.1 外出・就寝両場面におけるおどし表現

まず、外出・就寝両場面において、どのようなおどし表現が現れるのだろうか。子どもをおどす動作主別に分類して、結果を**グラフ2**に示した。また、**表2**には**グラフ2**に示した割合の具体的な数値を示した。外出・就寝の両場面を合わせて237の回答を得た。

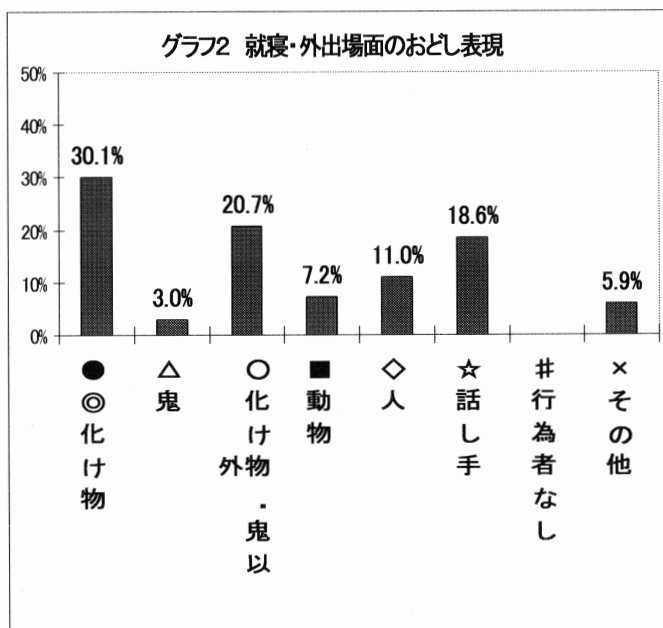


表2 就寝・外出場面のおどし表現 ( )=N

●◎化け物	30.1%(72)
△鬼	3%(7)
○化け物・鬼以外	20.7%(49)
■動物	7.2%(17)
◇人	11%(26)
☆話し手	18.6%(44)
#行為者なし	3.4%(8)
×その他(要求・命令表現/けなしことば)	5.9%(14)
計	100%(237)

まずは、おどし表現の構造について説明する。たとえば、「ハヤクネナイト モー クツツォ (早く寝ないとお化けが来るぞ)」を例にすると、その構造は、

仮定条件表現 + [ 述部 : A名詞(動作主) + B動詞(罰の与え方) ]

となる。このようなおどし表現は、子守歌詞章においても多く用いられている。A名詞(動作主)には、子どもに害を及ぼす動作主が当てられ、B動詞によってその動作主が子どもに及ぼす行動内容、つまり寝ない罰を与える方法が表現される。

ただし、「ネネート ソト ダスゾ (寝ないと外に出すぞ)」のように、子どもに罰を与える動作主が話し手自身の場合は、A名詞は省略される。また、仮定条件表現部分も省略されることが多い。

本調査の回答では、回答者数は少ないものの仮定条件表現を含む回答も得られたが、回答文例にはこの部分は記載していない。グラフ2には、このA名詞(動作主)を種類別にして割合を出した。その結果、●◎化け物、△鬼、○化け物・鬼以外の恐ろしいもの、■動物、◇人、☆話し手、#行為者なし、×その他というように分類した。(●◎化け物に関しては、4.1.1において、さらに●モー系と◎オバケ系に二分した。)



この分類に関しては、椎名（2011）においても比較対象地域として当該地域の調査結果を示したが、本稿では寝かせつけに限らず外出場面における回答も分析対象に含んでいる。そのため、取り上げる回答例も椎名（2011）となるべく重複しないよう注意した。4. 1. 1以降の各節内にある〔バリエーション〕には**A名詞（動作主）**部分のみを取り出した。同回答が2つ以上の場合は（ ）内に回答数を示した。また、〔回答文例〕の（ ）内には、必要に応じて共通語訳を付し、世代（高：高年層、中：中年層、若：若・少年層）の別と性別を記した。また、若年層の回答においてはその表現を聞いたことがあるという場合は、理解語として【リ】と記した。

以下、類別に例を挙げながら見ていく。

#### 4. 1. 1 ●◎化け物

両場面でも最も割合が高かったのは●◎化け物 30.1%という結果になった。●◎化け物は、●モー系と◎オバケ系とに区別した。高年層の中では、●モーが多く見られた。

回答では、●モーのバリエーションが多く、「アンモ」や「アモー」といったものは高年層に目立った。一方、◎オバケは、「オバケ」か「バケモノ」の2種のみでバリエーションは少ないが全世代に用いられている。

〔バリエーション〕 ●モー系：モー（12）、アンモ（3）、モーコ（4）、モッコ（2）、モンコ（2）、アンモッコ、アンモーコ、アモジャー、アモー、ガガンコ

◎オバケ系：オバケ（40）、バケモノ（4）、

〔回答文例〕 1. アンモッコ クル（アンモッコが来る／高・女）  
2. モー クツォ（モーが来るぞ／高・男ほか多数）

#### 4. 1. 2 △鬼

「鬼」は全体のうち最も少なく、語形の変種もない。総回答数は7であるが、全て若年層における回答であった。中年層以上は用いない結果となった。

〔回答文例〕 1. オニ クル（若・女） 2. オニガ クル（若・男）

#### 4. 1. 3 ○化け物・鬼以外の語形

ここには、化け物と鬼の語形以外の恐ろしいもの、異界のものなどを含めた。化け物と鬼以外の様々な恐ろしさを意味するものを含めたため、回答数もバリエーションも多い。回答を大別すると、仏・雷・異界のものといった3種に分けられる。

また、動作主だけではなく、表現の述部にもバリエーションが見られた。たとえば、「ゴロゴロサマ ナルゾ（雷が鳴るぞ）」といった述部もあれば、〔回答文例〕1.の「へそを持っていかれる」にあるように、複合動詞の受身形を用い、「ナル（鳴る）」よりも具体性・臨場性のある表現も見られた。子守歌詞章のおどし表現においては、子に恐怖を与える存在としては「モー」・「オバケ」など

の●◎化け物系が優勢だったが、本調査では神仏や雷などのバリエーションも多数見られた。また、「カゼノサブロー」は、インフォーマント（高・女）の聞いた昔話に登場する妖怪の一種であり、東北地方の昔話等に登場する。たとえば、福島の『相馬方言考』（1930）には、妖怪に加えて風の神という記述もある。

[バリエーション]

神仏：ゴンゲンサマ（2）、ノノサマ、カマガミサマ、シシマイ、

雷：ゴロゴロ（2）、ゴロゴロサン、ライサマ（2）、オレサマ（4）、オリヤサマ

異界物：ザスキワラス（座敷童子）、ヒトサライ（3）、ユウレー（幽霊）、ヤマンバ、  
ナマハゲ（2）、コワイコワイ、オカネノ（おっかないの）

その他：カゼノサブロー、フルヤノムリ

[回答文例] 1. ゴロゴロサンニ ヘソ モツテガレル(雷にへそを持っていかれる／若・女【リ】)  
2. ノノサマ ミテルゾ (高・女)

#### 4. 1. 4 ■動物

■動物では、クマ以外はネズミやキツネといった小動物が回答に見られた。なかでも、「ネズミ」と「キツネ」は、多くの昔話や東北地方の子守歌詞章のおどし表現にも見られ、子どもにとって身近な存在の動物であるといえる。子守歌詞章では「寝ないと鼠に引かれるぞ」や「狐にさらわれる」のように、「引かれる」や「さらわれる」などの述部が見られたが、本調査の回答では「居る（回答文例2）」や「来た（回答文例3）」という動詞が用いられていた。また、クマについては「熊に食わせる」という使役が使われていた（回答文例1）。

[バリエーション] ネズミ、キツネ、サル、クマ（3）、トリ、フクロー（梟）（2）

[回答文例] 1. クマサ カセツゾ（熊に食わせるぞ／高・男）

2. ソコニ キツネガ イル（高・女）

3. ネズミ キタ（高・女）

#### 4. 1. 5 ◇人

ここでは、警察・役人といった権威のある存在が登場した。「ダンポ」は、東北地方では階級の高い家の主人や警察・役人を意味する方言と認識されている。インフォーマントの内省によると、とくに気仙沼地方では「警察」の意味で用いられていた。これらは、中年層（50代）以下には使用が見られないため、高年層に特有の表現といえる。また、表現の述部は回答文例に示したように「クル（来る）」だけではなく「ツレテイカレルゾ（連れて行かれるぞ）」も見られた。

[バリエーション] ダンポ (8)、ダンポサン、オマワリサン (2)、ジュンサ (巡査)、オッカナイ  
オッチャン

[回答文例] 1. ダンポサマ クルゾ (警察が来るぞ/高・男)  
2. ダンポサンニ ツレテイカレルゾ (高・男)

#### 4. 1. 5 ☆話し手

話し手が動作主となって子どもに罰を行う意志を見せる表現は、多く見られた。整理すると、「子どもの場所の移動」、「話し手の聞き手に害を及ぼす行為」、「話し手の聞き手に対する行為の拒否(否定形)」の内容が見られた。[バリエーション] には、聞き手の移動場所と、行為(共通語訳)を抜き出した。回答文例をみてもわかるように、男性の回答が目立った。

[バリエーション] 聞き手の移動: クラ (蔵)、ソーコ (倉庫)、ヤマ (山)、カワ (川)、ソト (外)、  
モノオキ (物置)、ナンド (納戸)、オシイレ (押入れ)

話し手の行為: 殴る、告げ口する、げんこつする、叩く

話し手の行為(否定形): 買わない、連れて行かない、(家に) 入れない  
(おやつを) あげない

[回答文例]

聞き手の移動: 1. クラニ イレルヨ (蔵に入れるよ/若・男【リ】)  
2. オシイレニ シマウゾ (押入れにしまうぞ/高・男)  
3. ヤマサ ナゲッカラ (山に捨てるから/高・男)

話し手の行為: 1. ブンナグッゾー (ぶん殴るぞ/高・男)  
2. ユーコトサ キカナイト タタクゾー (言うことを聞かないと叩くぞ/  
高・男)  
3. オシリペンペン スルヨー (おしりぺんぺんするよ/高・女)

行為の拒否(否定形): 1. イエニ イレナイヨ (家に入れたいよ/若・女)  
2. ナニモ カッテケンネゾ (何も買ってやらないぞ/高・男)

#### 4. 1. 6 #行為者なし

[回答文例] に挙げた例以外にも少数見られた。こうした、動作主を明示しない言い回しは、得体の知れないものを聞き手に想像させ怖がらせるといった意図を含むのか、話し手と聞き手が同一の動作主を想像するような情報の共有が前提にあるのかといったことは不明である。

[回答文例] 1. ショージガラ ミデヅ (障子から見てるぞ/高・男)  
2. (しっかり目をつぶらないと) メー ミエナクナンダゾー (高・男)

3. ヨフカシ スルト ヘソ トリニクツヅ (夜更かしするとヘソ取りに来るぞ/  
若・男【リ】)

4. 1. 7 ×その他

ここでは、先に述べたおどし・甘やかし表現の文構造に相当しない、その他の文・表現を分類した。グラフ2でも14%を占め、雑多な内容が含まれている。おどし表現を用いていない、思い浮かばない場合や、第2回答を採用した。そのうち、回答文例をいくつか記載する。主に命令・禁止表現、悪態語に近いもの、当為表現や性向語など様々な形態の表現が見られる。

[回答文例]

1. ネネド オーキク ナンネーゾ (寝ないと大きくなるぞ/若・男【リ】)
2. ネネーゴタ ネネーゴタ コノガキメ (寝ないこと 寝ないこた このがきめ/高・男)
3. コノワラス イツマデモ ヨヒカリダ (この子はいつまでもよひかりだ/高・女)
4. ダラスケ (ばかもの/高・男)
5. オダツナヨ (調子にのるなよ/若・女)
6. コリヤ コノ (こら、この/中・男)
7. シズカニシロ (中・女)
8. キギヘンカ (聞きなさい/中・男)
9. ネンコダカラネ ロ (寝るんだから寝ろ/高・男)
10. サッサト ネライン (さっさと寝なさい/中・男)

4. 2 外出・就寝それぞれの場面におけるおどし表現

では、次に、4. 1で見てきたおどし表現の動作主の割合について、場面別・世代別に分類しグラフ3に示した。表3には、グラフ3の詳細な表現数と割合を記した。場面とは、先に述べた「寝かせつけ場面 (就寝場面)」と「外出の場面 (外出場面)」をさす。グラフ3をみると、どの世代も●◎化け物は、外出場面より就寝場面のほうが上回っている。ただ、高年層・中年層までは就寝場面と外出場面とで●◎化け物の出現率に大きな差がないが、若・少年層をみると、外出場面のほうが就寝場面よりも●◎化け物の出現率に差が目立つ。さらに若・少年層の外出場面では、少数ずつではあるものの、どの世代よりも様々な類が現れているため、表現が多様であると捉えられよう。このように、子をおどす際の表現では高年層より若年層のばらつきが目立つということは、若年層のほうが事態の捉え方に個人差があるからではないか。さらに、若年層では、外出場面と就寝場面という場面間における動作主の違いも大きい。このことから、同じおどし表現を用いる場合でも、若い世代ほど場面や状況によって表現を言い分けているのではないかと推測できる。



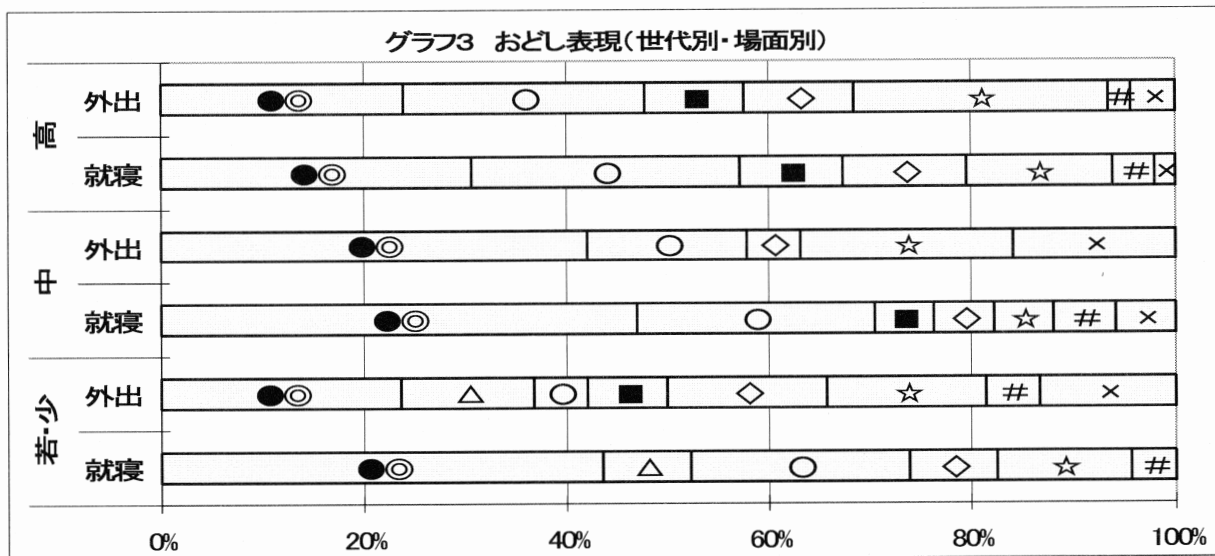


表3 おどし表現(世代別・場面別)

	高		中		若・少	
	就寝	外出	就寝	外出	就寝	外出
●◎化け物	30% (15)	23.9% (22)	53.3% (8)	42.1% (8)	43.5% (10)	23.7% (9)
△鬼	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	8.7% (2)	13.2% (5)
○化け物・鬼以外	26% (13)	23.9% (22)	26.7% (4)	15.8% (3)	21.7% (5)	5.3% (2)
■動物	10% (5)	9.8% (9)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	7.9% (3)
◇人	12% (6)	10.9% (10)	6.7% (1)	5.3% (1)	8.7% (2)	15.8% (6)
☆話し手が動作主	14% (7)	25% (23)	6.7% (1)	21.1% (4)	13.1% (3)	15.9% (6)
#行為者なし	4% (2)	2.2% (2)	6.7% (1)	0% (0)	4.3% (1)	5.3% (2)
×その他(要求・命令表現/けなしことば)	2% (1)	4.3% (4)	6.7% (1)	15.8% (3)	0% (0)	13.2% (5)
計	100%(50)	100%(92)	100%(15)	100%(19)	100%(23)	100%(38)

( ) = N

## 5 甘やかし表現

### 5.1 外出・就寝両場面におけるおどし表現

では、甘やかし表現についてはどうだろうか。おどし表現は子どもに罰を与える動作主の語彙に焦点を当てたが、甘やかし表現では、子どもに与える褒美の品物や行く場所といった目的格にあたる名詞を取り上げる。たとえば、「イーコニシテルト ナニカ カッテヤッツォ (いい子にしていると何か買ってあげるぞ)」という甘やかし表現は、

仮定条件表現 + [ 述部 : A名詞・目的語(褒美の品) + B動詞(褒美の与え方) ]

という構造になる。調査回答では、回答者数は少ないものの、こうした仮定条件表現を含む回答も得られたが、回答文例にこの部分は記載していない。分析対象となるのは、上の例に挙げた「ナニカ」に相当する部分である。グラフ4には、このA目的語(褒美の品)を種類別にして割合を出した。また、表4にはグラフ4の具体的な数値を示した。両場面を合わせて136の回答を得た。

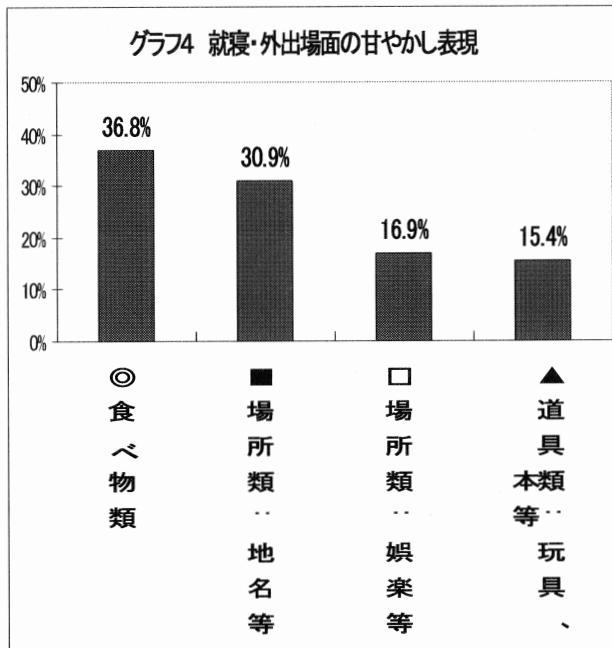


表4 外出・就寝場面の甘やかし表現 ( )=N

	計
◎食べ物類	36.8%(50)
■場所類: 町(地名等)	15.4%(21)
□場所類: 娯楽(公園・動物園等)	16.9%(23)
▲道具類(本・おもちゃ・お金等)	30.9%(42)
計	100%(136)

褒美の品として割合が高いのは食べ物類と道具類であった。◎食べ物類は36.8%と非常に多い。そして、娯楽の場所を褒美の品に掲げることも若い世代では多く見られた。

甘やかし表現には、◎食べ物、■場所：地名、□場所（娯楽）、▲道具の4つに大別した。

### 5. 1. 1 ◎食べ物

比較的多くの回答を得たが、「ご飯」のバリエーションとして、「ウマッコ」や「マンマ」「マ」といった幼児語が見られた。さらに、菓子系のバリエーションは多いが、そのまま「オカシ」と用いているものが大半であった。[回答例文] 1にあるように、述部は「ケッカラ（くれるから）」の方言語形が最も多く、若年層間でも見られた。

[バリエーション] ウンマコ、ウマッコ、ゴハン、マ（ご飯）、マンマ（3）、オイシーモノ、オカシ（26）、アメッコ（アメ）（5）、オヤツ（4）、アイスクリーム（2）、ケーキ、チョコレート、センベー、ジュース

[回答例文] 1. ウマッコ ケッカラ（ウマッコやるから／高・男）  
2. アイスクリーム カッテヤッカラ（高・男）

### 5. 1. 2 ▲道具

子どもが喜ぶものとして、玩具・小遣いなどが多く、どれも高年層話者に見られた。高年層のインフォーマントが子どもへの言語行動を想定する際、最も現在から近い記憶として孫との交流を想起する機会が多い。このことから、祖父母が孫に与えるものの代表として、品物や小遣いなどを買い与える機会も多いからなのかもしれない。しかし、「デカレンジャー」のような固有名詞は多く

は出てこなかった。とくに固有名詞を用いず、「オモチャ」・「イーモン」と簡潔に示す言い方が子どもへの褒美の表現として定着し、定型化しているのかもしれない。一方、金銭に関する語は多様であった。

[バリエーション] ダチンコ (駄賃) (4)、オカネ (2)、ゼンコ (銭)、イーモノ/イーモン (良い物) オモチャ、デカレンジャー、ホン (本) (2)、ニンギョー (人形)、

[回答例文] 1. オモチャ カッテヤル (高・男)  
2. ゼンコ ケッカラ (お小遣いあげるから/中・男【リ】)

### 5. 1. 3 □場所 (遊び・娯楽施設など)

ここには、広い意味で娯楽と捉えられるものを全て含めた。なかには、「〇〇へ行く」などの娯楽の場所だけではなく、[回答例文] 1にあるような話し手の行為(「～シテヤル」)も娯楽に関する行為としてここに含めた。また、具体的行為や場所を明示しない「ドッカ ツレテク」や、「アソビニ ツレテク」などもここに含めた。この表現は若年層話者に多く見られ、高年層話者にはあまりみられなかった。若年層の場合、屋外や娯楽施設に出向く機会も多いという生活形態が反映されているのだろうか。

[バリエーション] ドッカ、アソブ、オマツリ、バイク、サンポ、カタグルマ、ゲームセンター、ドーブツエン (動物園)、ウミ (3)、コーエン (公園)、カイモノ (買物)

[回答例文] 1. アトデ バイク ノセッカラ (高・男)  
2. カタグルマ シテヤルカラ (高・男)

### 5. 1. 4 ■場所 (町名・市街地・固有名詞など)

固有名詞は、仙台や東京といった都市部の名前が出てきた。ほかに、大型ショッピングセンターの「ジャスコ」なども回答に上がった。そして、地名や駅名など人口密度の高い市街地・中心地のことを「マチ」と総称する場合も見られた。「トーキョー」と「マチ」は、いずれも高年層話者の回答である。

[バリエーション] ジャスコ (3)、センダイ、トーキョー (東京)

[回答例文] 1. マチサ ツレデグ (高・女)  
2. トーキョーサツレテク (高・男)

## 5. 2 外出・就寝それぞれの場面における甘やかし表現

つぎに就寝・育児それぞれの場面を見る。5. 1で見てきた褒美の品の割合について、場面別・世代別に分類し、**グラフ5**に示した。**表5**には、**グラフ5**の詳細な表現数と割合を記した。

どの世代においても◎食べ物が多いが、とくに中年層において就寝の場面で用いることが多い。また、■場所：地名は若い世代ほど割合が高い結果となった。そのなかでも、□場所：娯楽は、若年層の就寝場面での使用率が高い。就寝場面での使用率が高いということは、娯楽施設は翌日などに向かう場所として話題していると考えられる。

そして、▲道具は、高年層のとくに就寝場面に目立ち、反対に若年層の就寝場面には現れない結果となった。これらの結果には、それぞれの世代の生活形態が関係していると考えられる。若年層世代の甘やかし表現の使用者の立場で多いのは子どもにとっての「親」である。また、高年層世代の甘やかし表現の使用者の立場は子どもにとっての「祖父母」である。就寝場面と一口にいっても、高年層と若年層とでは就寝の時間帯、つまり子どもを寝かせつける時間帯が異なる可能性がある。要するに、高年層世代が孫の世話をして寝かせつける場合の時間帯は、夜ではない可能性が高いということだ。そうすると、必然的に翌日の予定や向かう場所といった話題は出てこない可能性もあると考えられる。このような生活形態・家族内の立場が育児の言語行動に影響し、それが世代差として現れ出る可能性が高いということが明らかになった。

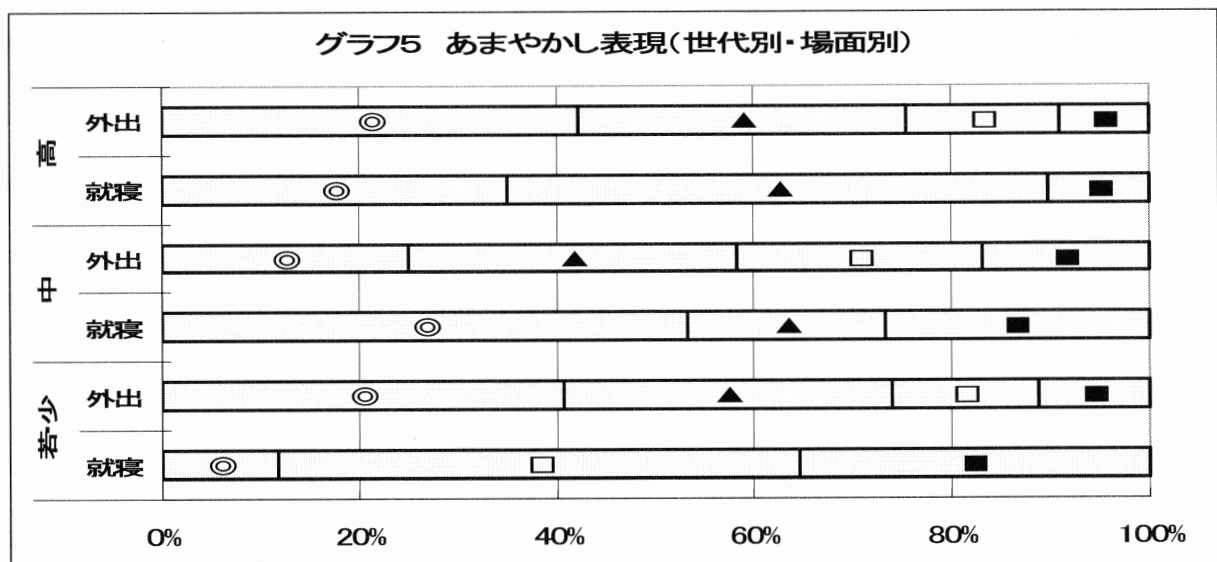


表5 甘やかし表現(世代別・場面別)

( )=N

	高		中		若・少	
	就寝	外出	就寝	外出	就寝	外出
◎食べ物類(まんま・お菓子等)	35%(7)	42.2%(19)	53.3%(8)	25%(3)	11.8%(2)	40.7%(11)
▲道具類(本・おもちゃ・お金等)	55%(11)	33.3%(15)	20%(3)	33.3%(4)	0%(0)	33.3%(9)
□場所類: 娯楽(公園・動物園等)	0%(0)	15.6%(7)	0%(0)	25%(3)	52.9%(9)	14.8%(4)
■場所類: 町(東京・気仙沼等)	10%(2)	8.8%(4)	26.7%(4)	16.7%(2)	35.3%(6)	11.1%(3)
計	100%(20)	100%(45)	100%(15)	100%(12)	100%(17)	100%(27)

## 6 まとめ

ここまでの世代別・場面別の観点から、分かったことをまとめる。



## 【おどし表現】

〈育児の言語行動にみられるおどし表現〉

- ・ ●モ一系の語形がとくに多い。古い形態が残っている。
- ・ 話し手が動作主になる表現も多く、とくに高年層男性に使用が目立つ。

〈世代別・場面別からみた動作主の出現割合〉

- ・ ●◎化け物は世代別、場面別ともに出現割合が高い。
- ・ 高年層・中年層までは●◎化け物だけでなく、○化け物・鬼以外の割合が半数以上を占めている。
- ・ 若年層では●◎化け物以外の動作主も多く、また、二つの場面に用いられる動作主の傾向に差があるため、場面によって言い訳を行っている場合があると捉えられる。

## 【甘やかし表現】

〈育児の言語行動にみられるおどし表現〉

- ・ ◎食べ物ではとくに「オカシ」が多く、バリエーションも多い。
- ・ 場所類のなかでも、「マチ」や「トーキョー」といった地名は高年層話者に見られ、具体的施設を取り上げた娯楽は若年層に見られた。

〈世代別・場面別からみた動作主の出現割合〉

- ・ ◎食べ物は世代別・場面別ともに出現割合が高い。
- ・ ▲道具は高年層に使用率が高く、就寝場面においても見られる。
- ・ ■口場所は、若年層が目立つ。とくに就寝場面では割合が高い。

今回は、育児場面の言語行動の記述に留まり、子守歌詞章におけるおどし表現・甘やかし表現の分析までは行えなかった。今後の課題としたい。また、4. 1. 7で述べた「×その他」の表現についても考察を深めなければならないだろう。

## 文 献

東洋(1981)『母親の態度・行動と子どもの知的発達:日米比較研究』東京大学出版会

池上嘉彦(1979)「『呪い』としての子守唄」『月刊言語』8-12(大修館書店)

椎名渉子(2011)「寝かせつけの言語行動」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿線地域方言の研究』東北大学国語学研究室

西尾純二(2009)「再検討・日本語行動の地域性」『月刊言語』38-4(大修館書店)

新妻三男(1930)『相馬方言考 改訂版』相馬郷土研究会

